

学校側の調査は不十分 広島大付属三原中の組み体操訴訟 遺族の母親訴え

中国新聞、2022 年 12 月 21 日

広島大付属三原中（広島県三原市）の 3 年男子生徒＝当時（14）＝が 2016 年 6 月に死亡したのは運動会の組み体操の騎馬の崩落が原因として、同市の遺族が広島大（東広島市）に約 9600 万円の損害賠償を求めた訴訟の口頭弁論が 21 日、広島地裁福山支部であった。本人尋問で遺族の母親が学校側の調査は不十分などと訴え、結審した。判決は来年 4 月 26 日。

母親は運動会まで生徒に病気などはなかったと証言。崩落前後の映像を撮影した保護者がいないか学校にアンケートを求めたが断られたとし、「学校は真実を追求してほしい」と訴えた。騎馬を構成していた生徒から後頭部に膝が当たったなどと直接聞いた内容と、その後学校側が聞き取った内容が異なっているとした。

この日は当時の担任の男性教諭の証人尋問もあり、生徒も加わって机を騎馬に見立てて動きを検証した結果、男子生徒の後頭部に脚が当たることはないとの結論だったと証言した。

口頭弁論後、遺族側の代理人弁護士は「騎馬に対する教員の危険意識が薄い。学校側の聞き取りには疑問点も多い」と指摘した。大学側の代理人弁護士は「騎馬の崩落はないという主張は変わらない」と述べた。（東山慧介）